（第三種郵便物認可）（大正八年三月七日）

廿三日夕刊

磐城時報

福島縣石城郡平町紺屋町十四　編輯兼發行人　岡田弘成
福島縣石城郡平町紺屋町十四　印刷所　加納活版所
福島縣石城郡平町紺屋町十五　發行所　磐城時報社
一部金武錢　一ヶ月金參拾錢
廣告料一行十四字詰金五十錢
△日刊（日曜、祭日）休刊

二三條件の改定で 公金預金者承認せん

磐城銀行整理案に對する 町村團体の態度

石城郡下町村並びに各種公共團体整理に努め今日單獨開業の機運を迎へた事は一銀行の問題で体聯合の平町磐城銀行に對する公金預金對策協議會では屢々委はなく地方的財界を復活せしむ員會を召集これが態度に就て愼るものであるとの見地から銀行重協議を遂げ、一方過日の委員復活の促進を期すと共に公金に會に於ては磐銀重役白井博之氏對する支拂制限の條件を有利にの列席を求めて同重役からの整展開せんとしてゐるから結局同理案内容を聽取した結果愈々來總會に於いては銀行側の懇請する二十五日平町磐城訓盲院に於るが如き支拂條件の二三改定意て全公金預金者總會を開き最後見はあるらしいが、大体銀行案の態度を決定することになつたを承認するのではないかと言はが、磐銀當局が休業發表以來復れてゐる。

稻は早く刈らねば 非常な不利益だ

橋本技師早刈奬勵

石城地方の水稻は目下刈り入れの適期に入つてゐるが、稻刈りを始めたのは少なく、大部分の農家では未だ早いと悠々と構へてゐる向きが多いので、石城郡駐在橋本技師はこの際一時も猶豫せずに稻刈りを行へと各町村役場を通じて宣傳中である、橋本技師は稻の早期刈入れの利益について語る。

「稻を遲く刈ると米質が低下し收穫が減少するのみならず藁も粗惡なものになるから非常に不利益である、尚ほ又刈つたならば小束にして架掛け乾燥の方法が最も適してゐる」

▲麥栽培講習會　石城郡磐崎村小學校にて二十八日麥作栽培講習會を開く、講師は郡農會柴田技手である。

▲稻增收品評會　平町外八ヶ町村聯合稻增收品評會は左の日割により坪刈りを行つて免囚保護を事業とする平自營會

平土木監督所で 道路を堀り放し

大勝自動車墜落 無責任を非難さる

二十五日湯本では來る三十日夜平町聚樂館に於て社會教育人間愛敎養劇渡邊三雄一派を招き人心劇を開演するが、入場料は三十錢である。

內鄉生れのカフエー女給 失戀して同性心中

實父死体引取りに上京

石城郡內鄉村大字高坂大野重作と、寶舘女將の妹宮原たい（二〇）も嘗て失戀した事があるの長女大野ふじの（二〇）は昨年夏頃から上京して東京市本鄉區本郷三の二カフエーサロメ事西島活動寫眞を見に行くと稱し家出八十七方の女給となり同區菊坂町寶舘に下宿してゐたが、同宿に下宿してゐた日本醫科三年生宮原繼一に戀し結婚を申込んだげた、報に接しふじの父重作は處鄉里に許嫁があるといふ理由二十二日死体引取りのため上京

二十餘名車座となり 大掛りな丁半賭博

格鬪して五名を逮捕

二十二日午後二時頃平町字梅ヶ村大字藤原地內で擧動不審の男を平署員が引致取調べると石は石城郡夏井村生れ當時住所不定無職前科四犯佐藤清（三一）と判明石城郡地方を中心に隣縣茨城方面に數十件の犯罪あり嚴重取調を續けてゐるが一言も發せず係員を手こずらしてゐる。

遠藤取締役 背任橫領

平檢事局に告訴

双葉郡久ノ濱町產業株式會社取締役遠藤正春は會社名義で買つた土地を自己所有の如く登記をなし自己負債の擔保として某銀行に抵當に入れたため株主から二十一日背任橫領として平檢事局に告訴された。

原町通信

石川組で 繭改善品評

歐米に於ける本邦蠶糸の需要は逐年多きを加へ其輸出年額實に八億數千万圓の巨額に達し國家の富源之に比肩するものなきにかゝわらず我蠶糸の品位實質の上に一大改善向上を促さんと相馬郡原町石川組製糸場にては之れが合理的改善發達を企圖し繭質の根本改良解舒能率の增進を期せんが爲め春秋を通じて石川組繭質改善品評會を開催し專ら生糸の生命たる「セリプレーン」と「解舒糸長」を中心とせる事を地方產繭の個々に付き精密な

菊花品評會　平町の菊花愛好家有志主催の菊花品評會は來る十一月一日から七日まで一週間同町南町共濟病院前空地に於て開催するが一等から五等まで賞品を呈すると。

養鷄講話會　江名町養鷄講話會は二十五日午前九時から江名町役場に開き郡農會大山技師の講演がある。

交通安全デー 故豫防打合

二十四日湯本、鹿島、平窪、夏井、飯野、草野、平審査を行ふ。

▲二十五日好間、神谷、

▲二十六日

平警察署管內自動車協會では二十六日行ふ筈である交通安全デー當日の事故豫防方法について打合せをなした。

平自營會で 教育劇公開

免囚保護を事業とする平自營會では來る十一月一日午前十時から平警察署內に幹部會を開き來る二十五日、

名灸著來る　東京の名家天眞齋眞浪先生は去る十月十三日より當地原町驛通り遊廓前に臨時出張所を設け施術中なるが名灸の事とて諸病に効果ありとて近郷近在の病軀老若男女は朝來より訪ひ來りて氏の名灸施術を嘆稱し居れり、尚ほ十月末日迄施術を行ふとの事である。

追憶の活動　追憶活動寫眞は原町旭座に於て廿二日晝夜二回に亘りて上映せしめて一般町村小學校生徒に觀覽せしめたが過ぐる日の追憶更に新たなる感があつた。

渡邊家の告別式　相馬郡原町渡邊禮五郎氏の葬儀は永年原町に在住せし關係上原町新祥寺に於て廿二日午後一時告別式を施行せしが氏は材木商として又事業家として社會に盡瘁せる事多きを以つて式場には花輪、造花、生花弔旗等を飾られ會葬者頗る多く日本赤十字社の弔詞等ありて謹嚴を極めた、尚ほ本葬は來る十一月六日鄉里石城郡勿來町九面の自宅に於て執行する由なるが享年七十歲なり。

懸賞附搜査者　相馬郡石神村大字馬場志賀幸治郎氏長男幸藏（二一）は今春以來精神病に罹り加療中なるが去る十三日同町原町競馬を見んと同町の扇屋旅館より紺縞の羽織袷に革帶を締めたまゝ行衛不明となりたるを以て同字の消防組員、青年團員等每日山野を搜査せしも見當らざるを以て今回父幸治郎氏は幸藏發見者には謝禮として金三十圓を贈呈すると。

自動車道路から落つ

平町田町白土自動車部運轉手白土藤一(二一)は二十二日午前十時頃乘合自動車を運轉して石城郡小川村地内に進行中カーブに差しかゝつた際高さ一丈余の道路から墜落したが運轉手は無事であつた。

賣地

商店向宅地　賣地

好間村大字上好間字忽滑
六十一ノ一
間口十一間半奥行八間
九十一坪

一、縣道に沿ひ好間郵便局眞西隣
一、好間尋常高等小學校に近し
一、古河鑛業株式會社好間竪坑前好間軌道停留所隣に位し、古河會社は目下數百萬圓を投じ新斜坑開鑿中、近く着炭すれば人夫入込多く大々有望地

平紺屋町
地主 **牛久**

時報文藝

▼流轉　××生

姫百合の樣な彼女は今いづこに、何を求めてゐる事やら、あゝくしき彼女の運命は、お前は不幸者だ、悲しむな、人を怨むな、天はいつしかお前をなぐさめるぞ、あゝくしきは人の運命ぞ、今日も又日は暮れる、彼女は淋しい秋空をあほいで流轉の旅に、求めるはいづこ、涯なき世界へ、秋の彼女達、爽かな秋は來た、秋の日に、彼女達は風に吹かれながら戯むれてゐる、美しき姿よ、おどれ、笑へ、あゝしとやかな彼女達の姿、愛する者は誰ぞ、それは果なき世界に幾人かあるぞ、おどれ、おどれ、今日も又日が暮れるまで。

祝原町支局開設

小高町長　**三島庄藏**
金房村長　**草野利八**
福浦村長　**安部一衛**
福浦小學校長　**折笠重雄**
太田村消防組頭　**高野正衛**
眞野村々會議員　**但野將**
眞野村々會議員　**加藤孫八**
眞野村々會議員　**福田市太郎**
眞野村鄉社男山八幡神社　社掌　**西道成**

着心地のよい
毛シヤツ
純毛シヤツ　二圓七十錢ヨリ
ラクダ　七圓五十錢ヨリ
十三圓マデ
平四丁目　に　電一四〇
ツルヤ商店

外科　花柳病科　專門
平町六丁目橋際
木村外科醫院
電話三〇九番

松たけ
鳥　季節向き新料理を始めました
お誘ひの上御試食を願ひます
平町田町
電話二三六番　**初音**

牛豚肉廉賣
秋——みのる秋!!肥ゆる秋!!!
愈々食肉のシーズンとは來る
精力と体力の增進を計るは今!!!
牛　中肉百匁　金二十五錢
同　上肉同　金四十五錢
同　ロース同　金六十錢
同　ヒレ同　金八十錢
豚　中肉百匁　金二十五錢
同　上肉同　金四十錢
同　ロース同　金五十錢
同　ヒレ同　金六十錢
平驛前(元平劇場入口)
深谷牛豚肉店
電話五二四番

◆壯烈日ヨリ觀賞三味の逸品揃ひ
◆日活太秦高級作品
原作　松本常男
監督　佛生寺彌作
鳥羽陽之助・楠英二郎
天保奇聞　**直侍と丑松**　(全)
芝居で有名な直侍と丑松
御家人には楠英二郎
暗闇の丑松には鳥羽陽之助
高勢、杉浦、花柳、吉野
など美人の活躍

◆松竹超大作・オーストラスルーキヤスト・幕末五劍錄の一◆
一殺多生劍
忠次旅日記・巨匠伊藤大輔監督
占門を始めとし・然し正篇に今秋磐陽映畫界の一大收穫である
映畫往來所載
巨匠伊藤大輔監督
衛此の一篇に大岡政談等に名を借りて描く幕末維新當時の階級と町人階級の暗闘
位置者人一第の督監畫映代時てつよ光が熱血兒市川右太衛門
唐澤名カメラマン大藤信郎

◆日活現代派超大作映畫
原作　伊奈月敏
監督　伊奈精一
我等が小杉勇主演
江戸名殘悲曲情緒　**百面相**　(全)
うらぶれ滅びゆく大江戸の名殘り、其の名殘りを獨り仕めて淋しく泣く寄席藝人の涙……
助演者　梅村蓉子、常磐操子其他

1 直侍と丑松七卷
2 百面相十卷
3 一殺多生劍十二卷
順寫
料金普通　**平館**

▼土日曜學生慰安デー　中學生金十錢・小學生金五錢
二葉印刷所
平町字仲町
電話七三四番